

平成25年度 糸魚川市特別活動部 活動報告

部長 谷口 一之

1 研究主題

「望ましい集団活動を通して、自主的・実践的な態度をどのように育てたらよいか」

2 研究の概要

糸魚川市教育研究会の特別活動部員（小・中合同）が、上記研究主題により、各学校で研究実践に取り組む。

11月の市教育研究会の一斉研修日の部会で、各自の実践を持ち寄り、研究協議を行い、実践を交流し、深める。また、講師を招いて講話を聞くことにより、幼稚園・保育園との連携や糸魚川市の子ども一貫教育についても研修を積む機会とする。

3 研究の実際

5月、研究主題をもとに、各自の今年度の研修についてのアンケートをとり、研究の進め方をまとめた。その後、各学校で、実践に取り組んだ。

11月13日の市教育研究会の一斉研修日に特別活動部会を開催した。

「特別活動部会の研修の概要」

各自の研究主題をうけた実践の報告、発表、協議

- ・学級に株式会社の活動を取り入れた実践、活動により配当、ボーナス、倒産もあり
- ・特活主任として、委員会活動の充実、縦割り班遠足、異学年、兄弟学年、同じ校地にある特別支援学校との交流等に取り組み、児童の自主性を育てている
- ・生徒会活動で各自の責任、役割を明確にし、地域とのかかわりにも力を入れている
- ・幼稚園、中学校との連携を進め、不登校、中1ギャップ解消等に取り組んでいる
- ・全校が一つのチームとしてまとまって活動できるように、リーダー研修会、全校学活、一体感をもった集会活動等に取り組んでいる

講話 吉原久美子 様（糸魚川幼稚園 副園長）

吉原先生には、実践発表にも加わっていただき、その後、講話、指導をいただいた。

- ・見えるものには、いつわりがたくさんある、真実を見る、自分を見つめること
- ・最近の親は、この子のためにとがんばる親と、子より自分のことを優先しがちな親の二極化がみられる、言いつばなし、預けつばなし、～ばなしにならないように
- ・保育園、幼稚園、公立、私立の違いがあり、それに今までの歴史や地域性も加わり、幼保小の一貫教育はそれほど簡単なことではない
- ・子は親の背中を見て育つ、親が喜怒哀楽を見せることも大事、保育士は親の代理はできても、親の代わりはできない、親の未熟が様々な問題を引き起こしている
- ・遊びの中に、子どもの本当の顔が見える、子どもは種をいっぱい植えこんでいる、芽が出るか、出ないかは分からない
- ・やっとうまくいかなくても、やらないで後悔するよりはいい、先生方のやりたいことをやって欲しい、親にもやってよと言って欲しい

4 成果と課題

各自の実践を発表、協議し、研修を深めることができた。また、講師の吉原先生から幼稚園からみた親のこと、子どものこと、小・中の先生に伝えたいことなど、多くの貴重な示唆をいただくことができた。小・中合同の部会であるため、小・中の連携、つながりの点でも、意義のある交流ができています。

小・中合同の部会であるが、他部との兼務もあり、少人数である。学級担任が限られ、授業研究の実施についても課題がある。会員の減少等で部の所属人数を増やすことは簡単ではないが、研修の進め方と合わせて検討していきたい。